

西川の

こんな本あります⑭



中学二年生。まだまだ「子ども」。けれど、「ずっと子どもではいられない」ということを感じ始めるのも、一四歳頃ではないでしょうか。大人って何？なんで大人にならんあかんの？大人になるってどういうこと？これは、実は、思春期だけの悩みではないような気がします。今回紹介するのは、その少し不安を含んだ心にそっと寄り添ってくれるような本。

『おとなになるってどんなこと？』

吉本ばなな著

「気持ちがあびわてしてしまったときや自分でも自分が信じられないほどに落ちこんでしまったとき、この本を手にとりしばらく読み返せばいつのまにか自分の内面が調律できる。もとの軸に戻る。そういってお守りみたいな本が作りたかったです。（本文まえがきより）」

第一問 おとなになるってどんなこと？ / 第二問 勉強しなくちゃだめ？ / 第三問 友だちってなに？ / 第四問 普通ってなに？ / 第五問 死んだらどうなるの？ / 第六問 年をよめるのはどうして？ / 第七問 生きるってなに意味があるの？ / 第八問 がたがたってなに？ / 八つの問に対して、吉本ばななさんが答える方向を優しく示してくれます。



うさぎの本の絵

今回も一〇代に向けて書かれた本。大人になっすぎていぶん長い私ですが、読み進めるにつれて肩の力が抜けました。一〇代はもろろん、二〇代でも三〇代でも、その先でも、何度も読み返すと良い、まさにお守りのような本です。